八戸工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	地理Ⅱ(0212)
科目基礎情報					
科目番号	1E04		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位A: 1	
開設学科	産業システム工学科電気情報工学コース		対象学年	1	
開設期	冬学期(4th-Q)		週時間数	4th-Q:2	
教科書/教材	地理探究/東京書籍、新高等地図/東京書籍、GCSE Geography AQA Student Book				
担当教員	河村 信治,佐伯 彩				
到達目標					
自然環境と人間の生活についての地理的見方、考え方が理解できる。 環境、国際社会など地理的な課題について自分自身との関わりを自覚し、広い視点を持ち、論理的に考えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	多文化共生の考え方を理解し、積極的な行動ができる	民族文化の多様性と、共生の考え方が理解できる	異文化に対して、排他的な見方を する		
	地域の課題と世界の繋がりを理解し、積極的に発言や活動ができる	地域の課題と世界の繋がりを理解できる	地域の課題と世界の繋がりを理解 できない		
	環境・社会の包括的な持続可能性について良く理解し、行動することができる	環境・社会の包括的な持続可能性について理解できる	環境・社会の包括的な持続可能性 について理解できない		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー DP1◎ ディプロマポリシー DP5◎ 地域志向 ◎					
教育方法等					
概要	【開講学期】冬学期週2時間 世界の自然的環境と人間社会との関係、地域内あるいは地域間のさまざまな現象の構造や関係を理解する。それは自分自身と、地域、国際社会、地球環境とのつながりを考えることでもある。網羅的な知識より、諸事象の構造や関係性の理解を重視し、また現代の環境問題や国際化・情報化社会に主体的に向き合っていくための原則や基本的考え方を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	冬学期には「多文化共生」と「SDGs」とを2大テーマとして、主に文化・民族をめぐる問題と、地域や社会の持続可能性についての課題とについて考えていく。テーマに応じて、グループワークを行うこともある。また学修単位のため、自学自習の課題も多くなる。				
注意点	冬学期は自ら調べ考える授業であり、主体的な意思表示とコミュニケーションが求められる。学習内容の復習とともに、学習のプロセスとそこから気づいたことを各自よくふりかえり整理しておくことが必要。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	文化と民族	文化と民族の概念を理解する。さまざまな国や地域の文化の違いにどう向き合うことが望ましいのか考える。	
		10週	文化・民族をめぐる問題	世界で起こっている紛争や難民問題の厳しい現実や、日本社会の中にもある民族対立・差別等の構造について理解する。	
		11週	紛争の解決のために	UNHCRやNGOなど、厳しい問題に取り組む国際的な人道支援活動について理解を深める。	
		12週	多文化共生社会とは	民族・宗教・生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共生することの重要性について考察できる。	
		13週	SDGs (持続可能な開発目標) (1)	グループワークを通して、グローバルに考え、身近な課題に向き合う意識と姿勢を高める。	
		14週	SDGs (持続可能な開発目標) (2)	グループワークを通して、グローバルに考え、身近な課題に向き合う意識と姿勢を高める。	
		15週	北東北地域の課題と可能性	震災復興や人口減少(地方創生)問題について理解する。当該地域における地域づくり、まちづくりの取組みについて理解を深め、地域社会への参加意識を高める。	
	16週	到達度試験とまとめ			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	到達度試験	その他の課題		その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0